

科目名		動物繁殖学			
担当教員		秋元 彩子	実務授業の有無		○
対象学科		愛玩動物看護師・リハビリ・トリマー学科	対象学年		2
必修・選択		必修	開講時期		前期
		単位数		時間数	
		2		32	
授業概要、目的、授業の進め方		繁殖は動物が存続する上で欠かせないものであり、雌雄がそれぞれ成長して生殖能力を有し受精により新たな個体（生命）が誕生する神秘的な営みである。本科目では主にイヌやネコの雌雄の生殖器の構造と機能、性行動及び発情・交尾・妊娠・分娩の過程を学ぶ。の雌雄の生殖器の構造と機能、性行動及び発情・交尾・妊娠・分娩の過程を学ぶ。さらに正常な分娩の前兆、生理的变化と異常な分娩時における助産について学習する。			
学習目標 (到達目標)		イヌやネコの雌雄の生殖器の構造と機能、性行動及び発情・交尾・妊娠・分娩を理解することができる。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		エデュワードプレス 基礎動物看護学			
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	雌の生殖器の構造と機能 生殖器の構造・機能・生理を理解する		動物種による違い（イヌ・ネコ・ウシ・ウマ・ブタ・ウサギ・げっ歯目・サル・ヒトなど）を学ぶ		
2	雄の生殖器の構造と機能 生殖器の構造・機能・生理を理解する		動物種による違い（イヌ・ネコ・ウシ・ウマ・ブタ・ウサギ・げっ歯目・サル・ヒトなど）を学ぶ		
3	生殖活動に関連するホルモン		動物種による違い（イヌ・ネコ・ウシ・ウマ・ブタ・ウサギ・げっ歯目・サル・ヒトなど）を学ぶ		
4	各ホルモンのフィードバック機構について学ぶ		動物種による違い（イヌ・ネコ・ウシ・ウマ・ブタ・ウサギ・げっ歯目・サル・ヒトなど）を学ぶ		
5	性成熟と生殖周期について学ぶ		産褥期の母体看護、新生児の管理を理解し、飼い主へのアドバイスに役立てる		
6	雌イヌの発情周期、排卵と交配について学ぶ		産褥期の母体看護、新生児の管理を理解し、飼い主へのアドバイスに役立てる		
7	雌イヌの繁殖（妊娠、分娩、出産の看護、性ホルモン濃度の推移、助産および帝王切開、新生子の管理）		交配上の注意、遺伝学の概論、遺伝性疾患についても理解を深める		
8	雌イヌの繁殖（妊娠、分娩、出産の看護、性ホルモン濃度の推移、助産および帝王切開、新生子の管理）		交配上の注意、遺伝学の概論、遺伝性疾患についても理解を深める		
9	雌ネコの繁殖（発情周期、排卵と交配、性ホルモン濃度の推移、分娩、助産および帝王切開、新生子の管理）		交配上の注意、遺伝学の概論、遺伝性疾患についても理解を深める		
10	雌ネコの繁殖（発情周期、排卵と交配、性ホルモン濃度の推移、分娩、助産および帝王切開、新生子の管理）		交配上の注意、遺伝学の概論、遺伝性疾患についても理解を深める		
11	雄イヌの繁殖、イヌネコの繁殖の人的支配（人工授精、誘起発情、避妊）		イヌネコのブリーディング		
12	雄ネコの繁殖、イヌネコの繁殖の人的支配（人工授精、誘起発情、避妊）		イヌネコのブリーディング		
13	遺伝学の基礎と遺伝性疾患		繁殖を通じて遺伝学の基礎と遺伝性疾患を学ぶ。		
14	遺伝学の基礎と遺伝性疾患		繁殖を通じて遺伝学の基礎と遺伝性疾患を学ぶ。		
15	総まとめ		授業のまとめ		
16	期末試験		今まで学んだ繁殖学のポイントを振り返り理解を深める		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。			時間ごとに小テストを実施し、履修後の確認をおこなう。		
実務経験教員の経歴		動物病院にて9年間の実務経験あり			

動物薬理学					
科目名	動物薬理学				
担当教員	佐山 恭子		実務授業の有無	○	
対象学科	愛玩動物看護科・リハビリ・トリマー学科	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	64
授業概要、目的、授業の進め方	薬は獣医師の処方により調剤するが、その薬理作用および副作用などを動物看護師が確認し、知識を有することは、カルテに記載された内容を正しく理解し、作用と症状の変化を予測する上で重要である。さらに動物は、種による体重の違いも大きく、生理的代謝の特異性による投与禁忌などがあるので確認が必要となるので、薬物の取扱いと保存方法を習得し、正確な薬用量計算ができなければならない。対面授業で実施。				
学習目標 (到達目標)	薬理学総論を通して、薬には基本的性質があり効能と副作用の両方を有することを理解できる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	エデュワードプレス 基礎動物看護学				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	総論 薬理学とは 薬と類する物の分類		医薬品と医薬部外品の違いについて		
2	薬理学の基本と医薬品の定義について学ぶ		薬事法関連		
3	薬物の剤形について 内服薬、注射薬、外用薬		看護実習の復習を兼ねる		
4	薬物の剤形について 内服薬、注射薬、外用薬		看護実習の復習を兼ねる		
5	薬物の投与方法について 静脈内投与		看護実習の復習を兼ねる		
6	薬物の投与方法について 静脈内投与		看護実習の復習を兼ねる		
7	薬物の投与方法について 経口投与、その他の投与方法		看護実習の復習を兼ねる		
8	薬物の投与方法について 経口投与、その他の投与方法		看護実習の復習を兼ねる		
9	薬物動態 体内の薬物の動き、効果発現までの流れについて		体内での薬物の崩壊、胃からの排出、小腸からの吸収、食事の影響、分布について学ぶ		
10	薬物動態 体内の薬物の動き、効果発現までの流れについて		体内での薬物の崩壊、胃からの排出、小腸からの吸収、食事の影響、分布について学ぶ		
11	薬物動態 体内に入った薬物の代謝について		肝臓の働きを復習しながら代謝について知り、効果的な投薬について学ぶ		
12	薬物動態 体内に入った薬物の代謝について		肝臓の働きを復習しながら代謝について知り、効果的な投薬について学ぶ		
13	効果に影響を与える因子について 頻度、年齢、性別		さまざまな要因により薬物の効果が変化したり、副作用がでることを知る。		
14	効果に影響を与える因子について 頻度、年齢、性別		さまざまな要因により薬物の効果が変化したり、副作用がでることを知る。		
15	前期期末試験		薬物動態の総まとめ		
16	フィードバック、問題応用		試験後も繰り返し問題を解き、習得させる		
17	おもな薬剤の特性 自律神経作用薬		獣医療の場で使用される薬剤の各論		
18	おもな薬剤の特性 自律神経作用薬		獣医療の場で使用される薬剤の各論		
19	おもな薬剤の特性 抗菌薬		獣医療の場で使用される薬剤の各論		
20	おもな薬剤の特性 抗菌薬		獣医療の場で使用される薬剤の各論		
21	おもな薬剤の特性 合成ステロイド		獣医療の場で使用される薬剤の各論		
22	おもな薬剤の特性 合成ステロイド		獣医療の場で使用される薬剤の各論		
23	おもな薬剤の特性 非ステロイド抗炎症剤		獣医療の場で使用される薬剤の各論		
24	おもな薬剤の特性 非ステロイド抗炎症剤		獣医療の場で使用される薬剤の各論		
25	おもな薬剤の特性 循環器疾患に対する薬		獣医療の場で使用される薬剤の各論		
26	おもな薬剤の特性 循環器疾患に対する薬		獣医療の場で使用される薬剤の各論		
27	おもな薬剤の特性 消化器疾患に対する薬		獣医療の場で使用される薬剤の各論		
28	おもな薬剤の特性 消化器疾患に対する薬		獣医療の場で使用される薬剤の各論		
29	おもな薬剤の特性 腫瘍疾患に対する薬		獣医療の場で使用される薬剤の各論		
30	おもな薬剤の特性 腫瘍疾患に対する薬		獣医療の場で使用される薬剤の各論		
31	薬用量の計算		動物は、年齢、体重、体格が様々である。薬物の投与量は動物ごとに決定する必要がある。		
32	期末試験		動物薬理学の総まとめ		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。			解剖生理学やカタカナ用語が多く出てくることから、苦手意識を持つ学生が多い。しかしながら、現場での必要性は非常に高く、覚えておくことで効率的に現場医療に介入できるのである。まずは、薬について興味を持つことが重要である。		
実務経験教員の経歴	動物看護師として動物病院現場において9年間関わっていた				

科目名		産業動物学			
担当教員	秋元 彩子		実務授業の有無	○	
対象学科	愛玩動物看護師・リハビリ・トリマー学科	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	3	時間数	48
授業概要、目的、 授業の進め方	産業動物の歴史や品種、飼養管理法および畜産業など社会との関わりについて学ぶ 対面授業で実施				
学習目標 (到達目標)	様々な動物の特性と人との関わりを理解する				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	エデュワードプレス 応用動物看護学				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	家畜（産業動物）とは何か		テキスト パワーポイント資料		
2	家畜の種類と特徴 馬		テキスト パワーポイント資料		
3	家畜の種類と特徴 牛		テキスト パワーポイント資料		
4	家畜の種類と特徴 綿羊・山羊		テキスト パワーポイント資料		
5	家畜の種類と特徴 豚		テキスト パワーポイント資料		
6	家畜の種類と特徴 鶏		テキスト パワーポイント資料		
7	主要家畜の飼養管理法 反芻動物（牛、羊、山羊）		テキスト パワーポイント資料		
8	主要家畜の飼養管理法 馬		テキスト パワーポイント資料		
9	主要家畜の飼養管理法 豚		テキスト パワーポイント資料		
10	主要家畜の飼養管理法 鶏		テキスト パワーポイント資料		
11	各家畜の性周期と繁殖生理を理解		テキスト パワーポイント資料		
12	各家畜の性周期と繁殖生理を理解		テキスト パワーポイント資料		
13	各家畜の飼育施設の概要について理解		テキスト パワーポイント資料		
14	各家畜の飼育施設の概要について理解		テキスト パワーポイント資料		
15	各家畜の飼養法について理解		テキスト パワーポイント資料		
16	日本の畜産業の実際 酪畜産業		テキスト パワーポイント資料		
17	日本の畜産業の実際 酪畜産業		テキスト パワーポイント資料		
18	日本の畜産業の実際 酪畜産業		テキスト パワーポイント資料		
19	日本の畜産業の実際 酪畜産業		テキスト パワーポイント資料		
20	日本の畜産業の実際 牛肥育業		テキスト パワーポイント資料		
21	日本の畜産業の実際 養豚業		テキスト パワーポイント資料		
22	日本の畜産業の実際 養鶏業		テキスト パワーポイント資料		
23	期末試験				
24	期末試験の振り返り				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		動物病院にて9年間の実務経験あり			

科目名		動物病理学			
担当教員	秋元 彩子		実務授業の有無	○	
対象学科	愛玩動物看護師・リハビリ・トリマー学科	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	様々な疾病が組織や臓器にもたらす変化を学び、病態について理解する 対面授業で実施				
学習目標 (到達目標)	疾病の成り立ちと回復の促進に寄与することを学ぶ				
テキスト・教材・参考図書・その他資料					
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	動物病理学総論 病理解剖と病理組織学的検査の目的、意義について理解		テキスト パワーポイント資料		
2	細胞や組織に生じる変化 変性と物質沈着/壊死とアポトーシス		テキスト パワーポイント資料		
3	細胞や組織に生じる変化 細胞増殖のメカニズム、器質化、再生と化生		テキスト パワーポイント資料		
4	細胞や組織に生じる変化 過形成と肥大/萎縮、低形成		テキスト パワーポイント資料		
5	循環障害 充血とうっ血/出血の原因		テキスト パワーポイント資料		
6	循環障害 血栓の成因/虚血と梗塞		テキスト パワーポイント資料		
7	循環障害 水腫、浮腫/ショックの原因と分類/DICの病態		テキスト パワーポイント資料		
8	炎症 定義と五大徴候/分類と原因、特徴		テキスト パワーポイント資料		
9	炎症 関与する細胞と化学伝達物質/経過と治療		テキスト パワーポイント資料		
10	腫瘍 定義と分類/原因と発生機序		テキスト パワーポイント資料		
11	腫瘍 宿主の関係/転移と進行		テキスト パワーポイント資料		
12	先天異常 遺伝子・染色体異常		テキスト パワーポイント資料		
13	先天異常 発生異常と奇形		テキスト パワーポイント資料		
14	組織標本の作製法		テキスト パワーポイント資料		
15	期末試験				
16	期末試験の振り返り				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		動物病院にて9年間の実務経験あり			

科目名		動物臨床看護学各論Ⅰ			
担当教員	遠藤 純一		実務授業の有無	○	
対象学科	愛玩動物看護学・リハビリ・トリマー学科	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	64
授業概要、目的、授業の進め方	チーム獣医療の場で必要な病名や診断名について学習する。また、治療方針の理解度を高め、疾病別の動物看護に活かすために必要な疾病について学ぶ 対面授業で実施				
学習目標 (到達目標)	器官別の疾患について、特有の検査や動物看護に必要な知識を学び、動物の看護を実践できるよう知識を身に付ける。疾患によって、好発種や、好発年齢があるので、そのポイントを把握した上で各症状を理解し、動物への看護法を実践できる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	パワーポイント資料				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	全身徴候 疼痛		パワーポイント		
2	全身徴候 疼痛		パワーポイント		
3	全身徴候 かゆみ		パワーポイント		
4	全身徴候 かゆみ		パワーポイント		
5	特異的徴候 嘔吐と吐出		パワーポイント		
6	特異的徴候 排便異常、排尿異常		パワーポイント		
7	特異的徴候 呼吸異常		パワーポイント		
8	特異的病態		パワーポイント		
9	循環器系疾患		パワーポイント		
10	循環器系疾患		パワーポイント		
11	循環器系疾患		パワーポイント		
12	循環器系疾患		パワーポイント		
13	呼吸器系疾患		パワーポイント		
14	呼吸器系疾患		パワーポイント		
15	呼吸器系疾患		パワーポイント		
16	呼吸器系疾患		パワーポイント		
17	消化器系疾患		パワーポイント		
18	消化器系疾患		パワーポイント		
19	消化器系疾患		パワーポイント		
20	消化器系疾患		パワーポイント		
21	消化器系疾患		パワーポイント		
22	泌尿器系疾患		パワーポイント		
23	泌尿器系疾患		パワーポイント		
24	泌尿器系疾患		パワーポイント		
25	泌尿器系疾患		パワーポイント		
26	内分泌系の疾患		パワーポイント		
27	内分泌系の疾患		パワーポイント		
28	内分泌系の疾患		パワーポイント		
29	内分泌系の疾患		パワーポイント		
30	総復習		パワーポイント		
31	期末試験		パワーポイント		
32	振り返り		パワーポイント		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴	動物病院にて動物看護師として5年勤務				

科目名	動物形態機能学実習Ⅰ				
担当教員	岡崎 康隆		実務授業の有無	○	
対象学科	愛玩動物看護師・リハビリ・トリマー学科	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	<p>動物の身体の形態と機能を、骨格標本や臓器模型、主要臓器の組織像などを通じて学ぶ</p> <p>動物を生命体として細胞、組織、臓器レベルの各階層での知識は動物形態機能学で修得しながら、犬の体に触れたとき、今、自分が触れているところには何があるのかが立体的にわかるようになる</p> <p>犬や猫の体を構成する骨、筋、内臓器の位置と相関関係が立体的に理解できる</p>				
学習目標 (到達目標)	修得した知識の実践力を身に付ける				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	エデュワードプレス 基礎動物看護学				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	体表面：体位と方向を示す用語				
2	標本による骨格形態と機能の理解（頭蓋、歯）		骨格標本を用いる		
3	標本による骨格形態と機能の理解（脊柱）		骨格標本を用いる		
4	標本による骨格形態と機能の理解（肋骨と胸骨）		骨格標本を用いる		
5	標本による骨格形態と機能の理解（肩、腕、前腕部）		骨格標本を用いる		
6	標本による骨格形態と機能の理解（骨盤を構成する骨）		骨格標本を用いる		
7	標本による骨格形態と機能の理解（大腿と下腿を構成する骨）		骨格標本を用いる		
8	代表的な関節の名称と構造、機能の理解				
9	代表的な骨格筋の名称と構造、機能の理解（深層の筋）				
10	代表的な骨格筋の名称と構造、機能の理解（体感筋）				
11	代表的な骨格筋の名称と構造、機能の理解（四肢の筋）				
12	代表的な骨格筋の名称と構造、機能の理解（浅層筋）				
13	主要な内臓器官の配置		模型を用いる		
14	生殖器の雌雄差				
15	期末試験				
16	フィードバック				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。			動物形態機能学で学んだことをしっかりと認識して実習に臨むこと。知識が不足している場合は実習に参加できないことがある。積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席する。		
実務経験教員の経歴	動物看護師として8年間、動物病院に勤務していた				

科目名	動物内科看護学実習II				
担当教員	遠藤 純一	実務授業の有無	○		
対象学科	愛玩動物看護師・リハビリ・トリマー学科	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	<p>犬や猫の日常的な健康管理や内科療法の補助に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を習得する。</p> <p>1年次で習得した技術を実践する。</p> <p>対面授業で実施。</p>				
学習目標 (到達目標)	<p>獣医療を受けるさいに必要な検査や補助業務の内容を理解し、実践できる。</p> <p>人と犬にとって安全であり、犬が安心していられる接触のしかたを知る。犬の健全な管理と飼育を遂行する重要性を理解できる。</p>				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	動物看護実習テキスト第2版				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	身体検査 意識レベル、BCS、粘膜色、体表リンパ節、体重測定	実習			
2	身体検査 バイタルサインの評価	実習			
3	身体検査 意識レベル、BCS、粘膜色、体表リンパ節、体重測定	実習			
4	身体検査 バイタルサインの評価	実習			
5	身体検査 意識レベル、BCS、粘膜色、体表リンパ節、体重測定	実習			
6	身体検査 バイタルサインの評価	実習			
7	診察補助 診察準備、衛生管理	実習			
8	基本的な保定	実習			
9	基本的な保定	実習			
10	採血・採尿の手順	実習			
11	採血・採尿の手順	実習			
12	輸液準備	実習			
13	輸血に関わる技術	実習			
14	総復習	実習			
15	期末試験				
16	振り返り				
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴	動物病院にて動物看護師として5年勤務				

動物臨床検査学実習Ⅱ						
科目名	動物臨床検査学実習Ⅱ					
担当教員	岡崎 康隆		実務授業の有無	○		
対象学科	愛玩動物看護部・リハビリ・トリマー学科		対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	32	
授業概要、目的、授業の進め方	「動物臨床検査学実習Ⅰ」で習得した手技に応用力を付けて正確性、迅速性を身につける。検査の意義を理解し、手順書を見ないでも一人で責任を持った検査結果を出せるよう繰り返し実習し、また、検査結果の意味と関連性臓器について考察できるようにする。常に検査結果を標準値と比べ、異常値の場合は速やかに獣医師に報告できるように一連の流れを習得する。スタッフの安全と院内感染防止にも配慮し、検査後の看護動物の容態観察も習得する。					
学習目標 (到達目標)	習得した基礎の実践とし、臨床検査の意義を理解し基本的手技を身につける。また看護実践ができる					
テキスト・教材・参考図書・その他資料	動物看護の実践、動物看護実習テキスト、パワーポイント資料					
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考			
1	筋・骨格、各臓器の名称・位置・働きなどの解剖・生理学を理解し、スムーズな臨床検査が実施できる①		実習（場合によっては座学交え行う）			
2	顕微鏡各部の名称を知り、適切な操作法を身につける①		実習（場合によっては座学交え行う）			
3	血液検査①-1（意義・目的・採血部位・保定・駆血・CBC検査）		実習（場合によっては座学交え行う）			
4	血液検査②-1（血液塗抹標本・生化学検査・輸血クロスマッチ・住血寄生虫の検査）		実習（場合によっては座学交え行う）			
5	血液検査③-1（免疫学的検査・凝固系検査・小テスト）		実習（場合によっては座学交え行う）			
6	尿検査①-1（意義・目的・機器備品の管理・採尿法物理学的性状検査項目・手技・科学的検査項目・手技）		実習（場合によっては座学交え行う）			
7	尿検査②-1（顕微鏡学的検査項目・手技・正常値・異常値・小テスト）		実習（場合によっては座学交え行う）			
8	糞便検査①-1（目的・意義・機器・備品管理採便法・物理学的性状検査項目・手技）		実習（場合によっては座学交え行う）			
9	糞便検査②-1（顕微鏡学的検査項目・手技※直接法、浮遊法虫卵の判別・免疫学的検査・小テスト）		実習（場合によっては座学交え行う）			
10	細胞診検査①-1（目的・意義・長所・欠点）		実習（場合によっては座学交え行う）			
11	細胞診検査②-1（検体の採取法・検体の保存法・スメア法・小テスト）		実習（場合によっては座学交え行う）			
12	骨髄検査①-1（目的・意義・異常・疾患・準備・手順）		実習（場合によっては座学交え行う）			
13	骨髄検査②-1（塗抹標本の作製・鏡検・小テスト）		実習（場合によっては座学交え行う）			
14	微生物学的検査①-1（目的・意義・滅菌・消毒・殺菌・感染・細菌真菌の種類・細菌培養）		実習（場合によっては座学交え行う）			
15	微生物学的検査②-1（真菌培養・菌の同定・薬剤感受性試験・菌種と抗生物質・鏡検・小テスト）		実習（場合によっては座学交え行う）			
16	レントゲン検査①-1（基本原理・撮影条件・器具・カセット・フィルム・ポジショニング）		実習（場合によっては座学交え行う）			
17	レントゲン検査②-1（現像・フィルムとデータの管理・読影・報告の義務・小テスト）		実習（場合によっては座学交え行う）			
18	超音波検査①-1（目的・意義・解剖生理・妊娠診断・出産・周波数・検査準備）		実習（場合によっては座学交え行う）			
19	超音波検査②-1（取扱い・操作法・ポジショニング・画像のあらし方・画像の見方・小テスト）		実習（場合によっては座学交え行う）			
20	超音波検査③-1（取扱い・操作法・ポジショニング・画像のあらし方・画像の見方・小テスト）		実習（場合によっては座学交え行う）			
21	心電図検査①-1（目的・意義・基本原理・検査準備・操作法・ポジショニング）		実習（場合によっては座学交え行う）			
22	心電図検査②-1（正常波形・異常波形・記録紙の見方・データの読み取り・小テスト）		実習（場合によっては座学交え行う）			
23	眼科検査①-1（目的・意義・解剖生理・眼の疾患・視覚検査・眼科神経学的検査・シルマー試験・フルオレセイン試験）		実習（場合によっては座学交え行う）			
24	眼科検査②-1（眼圧検査・眼底検査・細隙灯顕微鏡検査・その他の眼科検査・小テスト）		実習（場合によっては座学交え行う）			
25	耳の検査①-1（目的・意義・解剖生理・耳鏡の扱い方）		実習（場合によっては座学交え行う）			
26	耳の検査②-1（塗抹標本作成・寄生虫・手入れ・消毒・小テスト）		実習（場合によっては座学交え行う）			
27	耳の検査③-1（塗抹標本作成・寄生虫・手入れ・消毒・小テスト）		実習（場合によっては座学交え行う）			
28	皮膚の検査①-1（目的・意義・機器・備品・病変の観察と記録）		実習（場合によっては座学交え行う）			
29	皮膚の検査②-1（皮膚掻痒・スタンプ・抜毛検査・ウッド等真菌培養・小テスト）		実習（場合によっては座学交え行う）			
30	神経学的検査①-1（目的・意義・検査環境・備品・反応と反射）		実習（場合によっては座学交え行う）			
31	神経学的検査②-1（脳神経の検査法・評価記録法・小テスト）		実習（場合によっては座学交え行う）			
32	期末試験					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意			
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。			検査ごとに小テストを実施し、履修の理解度を把握する。また実技試験を実施し、手技などの確認も行う			
実務経験教員の経歴	動物看護師として8年間、動物病院に勤務していた					

動物外科看護学実習 II					
科目名	動物外科看護学実習 II				
担当教員	佐山 恭子		実務授業の有無	○	
対象学科	愛玩動物看護科・リハビリ・トリマー学科	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	64
授業概要、目的、授業の進め方	看護動物が安全に麻酔（手術）を遂行するためには、術前の準備として看護動物の術前評価及び状態把握の目的・意義を理解することが重要である。また、麻酔（手術）が円滑に行われるためには日頃からの手術器具、機材の管理が必要となる。 対面授業で実施。				
学習目標（到達目標）	周術期の術前・術中・術後において、動物看護師の役割である外科手術の補助をするために必要な基礎知識を学び、外科看護技術を修得できる				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	動物看護実習テキスト（エデュワードプレス）、動物看護の実践6（ファームプレス）				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	麻酔記録 正常と異常を理解する		麻酔記録の書き方		
2	麻酔覚醒 麻酔覚醒の生じるメカニズムを理解する		1年次の復習		
3	術後管理 創傷の保護、包帯法		1年次の復習		
4	術後管理 疼痛管理		ペインスケール		
5	術後管理 術後の動物の安静・環境を考える		リスクマネジメント		
6	術後管理 栄養管理		給与エネルギーの計算		
7	術後管理 栄養チューブ		チューブ設置方法		
8	去勢手術実習に向けてシュミレーション 術式の確認		去勢手術実習に向けて、個人のレベルアップとチーム力を高める		
9	去勢手術実習に向けてシュミレーション 器具、器材の準備		去勢手術実習に向けて、個人のレベルアップとチーム力を高める		
10	去勢手術実習に向けてシュミレーション 術中の動き、術後管理		去勢手術実習に向けて、個人のレベルアップとチーム力を高める		
11	避妊手術実習に向けてシュミレーション 術式の確認		避妊手術実習に向けて、個人のレベルアップとチーム力を高める		
12	避妊手術実習に向けてシュミレーション 器具、器材の準備		避妊手術実習に向けて、個人のレベルアップとチーム力を高める		
13	避妊手術実習に向けてシュミレーション 術中の動き、術後管理		避妊手術実習に向けて、個人のレベルアップとチーム力を高める		
14	実技試験		外科看護技術の修得		
15	筆記試験		外科看護技術の修得		
16	フィードバック		外科看護技術の修得		
17	去勢手術実習に向けて術前準備 器具機材の準備、術前検査		去勢手術の周術期に関する業務を実践する		
18	去勢手術実習に向けて周術期管理 消毒、器具出し、モニター管理		去勢手術の周術期に関する業務を実践する		
19	去勢手術実習に向けて術後管理 覚醒、術創の保護		去勢手術の周術期に関する業務を実践する		
20	避妊手術実習に向けて術前準備 器具機材の準備、術前検査		避妊手術の周術期に関する業務を実践する		
21	避妊手術実習に向けて周術期管理 消毒、器具出し、モニター管理		避妊手術の周術期に関する業務を実践する		
22	避妊手術実習に向けて術後管理 覚醒、術創の保護		避妊手術の周術期に関する業務を実践する		
23	腫瘍または乳腺手術実習に向けて術前準備 器具機材の準備、術前検査		避妊手術の周術期に関する業務を実践する		
24	腫瘍または乳腺手術実習に向けて周術期管理 消毒、器具出し、モニター管理		避妊手術の周術期に関する業務を実践する		
25	腫瘍または乳腺手術実習に向けて術後管理 覚醒、術創の保護		避妊手術の周術期に関する業務を実践する		
26	骨折手術実習に向けて術前準備 器具機材の準備、術前検査		避妊手術の周術期に関する業務を実践する		
27	骨折手術実習に向けて周術期管理 消毒、器具出し、モニター管理		避妊手術の周術期に関する業務を実践する		
28	骨折手術実習に向けて術後管理 覚醒、術創の保護		避妊手術の周術期に関する業務を実践する		
29	総復習、実技試験に向けて		外科看護技術の修得		
30	実技試験		外科看護技術の修得		
31	筆記試験		外科看護技術の修得		
32	フィードバック		外科看護技術の修得		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。			1年次に習得した外科実習を実践する。麻酔管理は命にかかわることとなるため、曖昧な知識のままでは参加が難しい。復習を行い、実践に備えること。		
実務経験教員の経歴	動物看護師として動物病院現場において9年間関わっていた				

科目名	動物看護総合実習Ⅱ				
担当教員		実務授業の有無	○		
対象学科	愛玩動物看護師・リハビリ・トリマー学科	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	45
授業概要、目的、授業の進め方	<p>修学した知識と技術が実際の動物医療現場でどのように活かされているのか動物病院で体験・実習する。動物病院の施設構造・機能を理解し看護が行われている場の環境を理解することで、獣医療現場での臨床経験から看護動物や飼い主への配慮を含むより実践的な看護と専門知識および倫理感を習得する。対面授業で実施。</p>				
学習目標 (到達目標)	<p>いままで修学した知識と技術、コミュニケーション能力を発揮し、先輩動物看護師に見習うことで、新人スタッフとしての心構えと社会人としての責任感を養い自身に不足している部分を理解できる。</p>				
テキスト・教材・参考図書・その他資料					
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	発揮したい事項① 医療チームの一員として相応しい態度、学習者としての相応しい態度				
2	学びたい技術① 動物病院に必要な環境に関するアセスメント・整備技術				
3	学びたい技術② 動物病院に必要な食事に関するアセスメント・介助技術				
4	学びたい技術③ 排泄技術				
5	学びたい技術④ 動物病院に必要な活動・休息・援助に関するアセスメント・介助技術				
6	学びたい技術⑤ 動物病院に必要な身体の清潔に関するアセスメント・援助技術				
7	学びたい技術⑥ 動物病院に必要な身体の呼吸・循環に関するアセスメント・技術				
8	学びたい技術⑦ 動物病院に必要な創傷管理に関するアセスメント・技術				
9	学びたい技術⑧ 動物病院に必要な投薬に関するアセスメント・技術				
10	学びたい技術⑨ 動物病院に必要な生体機能管理に関するアセスメント・技術				
11	学びたい技術⑩ 動物病院に必要な感染予防に関するアセスメント・技術				
12	学びたい技術⑪ 動物病院に必要な安全管理に関するアセスメント・技術				
13	学びたい技術⑫ 動物病院に必要なコミュニケーションに関するアセスメント・技術				
14	学びたい技術⑬ 動物病院に必要な周術期の看護に関するアセスメント・技術				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。			動物病院での臨床実習		
実務経験教員の経歴					

科目名		公衆衛生学			
担当教員	山下 静香		実務授業の有無	○	
対象学科	愛玩動物看護科・リハビリ・トリマー学科	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	64
授業概要、目的、授業の進め方	環境および食品衛生、疫学、人獣共通感染症について学び、人の健康の維持・増進や疾病予防への応用について理解する 対面授業で実施				
学習目標 (到達目標)	人と動物の調和に関わることを学ぶ				
テキスト・教材・参考図書・その他資料					
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	公衆衛生とは		テキスト朗読、板書、必要に応じて資料プリント配布		
2	動物看護における公衆衛生学の目的		テキスト朗読、板書、必要に応じて資料プリント配布		
3	疫学と疾病予防		テキスト朗読、板書、必要に応じて資料プリント配布		
4	疫学と疾病予防		テキスト朗読、板書、必要に応じて資料プリント配布		
5	環境衛生とは		テキスト朗読、板書、必要に応じて資料プリント配布		
6	水の衛生、大気の衛生、環境問題		テキスト朗読、板書、必要に応じて資料プリント配布		
7	感染性廃棄物、医療廃棄物、衛生動物		テキスト朗読、板書、必要に応じて資料プリント配布		
8	食品衛生法とは		テキスト朗読、板書、必要に応じて資料プリント配布		
9	動物性食品の取り扱い		テキスト朗読、板書、必要に応じて資料プリント配布		
10	食品汚染に対する衛生活動		テキスト朗読、板書、必要に応じて資料プリント配布		
11	食品とアレルギー		テキスト朗読、板書、必要に応じて資料プリント配布		
12	食中毒対策		テキスト朗読、板書、必要に応じて資料プリント配布		
13	食中毒対策		テキスト朗読、板書、必要に応じて資料プリント配布		
14	食品の規格・基準		テキスト朗読、板書、必要に応じて資料プリント配布		
15	期末試験				
16	期末試験の振り返り				
17	人獣共通感染症とは		テキスト朗読、板書、必要に応じて資料プリント配布		
18	人獣共通感染症になる原因を理解		テキスト朗読、板書、必要に応じて資料プリント配布		
19	人と動物の症状の違い		テキスト朗読、板書、必要に応じて資料プリント配布		
20	日本での発生について/予防方法		テキスト朗読、板書、必要に応じて資料プリント配布		
21	予防方法を理解		テキスト朗読、板書、必要に応じて資料プリント配布		
22	伴侶動物が関係する人獣共通感染症		テキスト朗読、板書、必要に応じて資料プリント配布		
23	伴侶動物が関係する人獣共通感染症		テキスト朗読、板書、必要に応じて資料プリント配布		
24	伴侶動物が関係する人獣共通感染症		テキスト朗読、板書、必要に応じて資料プリント配布		
25	伴侶動物が関係する人獣共通感染症		テキスト朗読、板書、必要に応じて資料プリント配布		
26	伴侶動物が関係する人獣共通感染症		テキスト朗読、板書、必要に応じて資料プリント配布		
27	伴侶動物が関係する人獣共通感染症		テキスト朗読、板書、必要に応じて資料プリント配布		
28	新興感染症と再興感染症		テキスト朗読、板書、必要に応じて資料プリント配布		
29	薬剤耐性菌		テキスト朗読、板書、必要に応じて資料プリント配布		
30	薬剤耐性菌		テキスト朗読、板書、必要に応じて資料プリント配布		
31	期末試験				
32	期末試験の振り返り				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。			人と動物を取り巻く社会環境の変化に対応できる知識を身に付け、疾病予防、健康の維持・増進を目的に関連業務においてその必要性や方法について明確に理解する。		
実務経験教員の経歴	動物看護師として約4年勤務				

科目名	動物臨床栄養学Ⅱ				
担当教員	稲川 祥子		実務授業の有無	○	
対象学科	愛玩動物看護師・リハビリ・トリマー学科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	<p>栄養学的管理が疾患の治療と健康の維持に大きく関連する疾病について各論として学ぶ。獣医師によって予後診断された中で、動物看護師が栄養学的な管理に関わられる疾患について学び、課程での最適な管理を飼い主に指導できる知識を習得する。</p> <p>対面授業で実施。</p>				
学習目標 (到達目標)	<p>疾患別の管理については、市販の療法食を活用することが多いため、その療法食の特性を理解し、獣医師の指導のもとで使用することの確認と、必ず定期的な指導のもとで使用することを周知させる必要がある。動物看護師は、獣医師の診断内容と栄養学的な内容を理解し、その疾患に関連する解剖学や生理学の知識を復習して、栄養学および食事の指導をする。</p>				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	基本からよくわかる犬と猫の栄養管理、その他資料配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	尿路結石/下部尿路疾患		テキスト、資料を使用		
2	心臓病		テキスト、資料を使用		
3	消化器病		テキスト、資料を使用		
4	腎臓病		テキスト、資料を使用		
5	肝臓病		テキスト、資料を使用		
6	口腔疾患		テキスト、資料を使用		
7	糖尿病		テキスト、資料を使用		
8	食物アレルギー		テキスト、資料を使用		
9	関節炎		テキスト、資料を使用		
10	肥満		テキスト、資料を使用		
11	がん		テキスト、資料を使用		
12	脳の加齢と認知障害 甲状腺機能亢進症		テキスト、資料を使用		
13	術後の栄養管理 強制給餌と経管・静脈栄養法		テキスト、資料を使用		
14	ペットフード市場 関係法規		テキスト、資料を使用		
15	栄養指導		テキスト、資料を使用		
16	まとめ		小テスト実施		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
<p>成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(60点未満)とする。</p>			<p>解剖生理の復習、小テストを実施し、理解度を確認する。</p>		
実務経験教員の経歴	ペットフードメーカーにて企画開発・営業等に携わった				

科目名		動物飼育実習Ⅱ				
担当教員	佐山 恭子		実務授業の有無	○		
対象学科	愛玩動物看護部・リハビリ・トリマー学科		対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	64	
授業概要、目的、授業の進め方	1、動物種ごとの適切な食事や環境を提供できるようになる 2、犬の飼育に必要な接し方・ハンドリング・ケア方法を実践できるようになる 3、猫・小動物の飼育に必要な接し方・ケアの方法を実践できるようになる 対面授業で実施					
学習目標 (到達目標)	正常な動物を知り、動物種ごとに適した飼育管理を実践できる					
テキスト・教材・参考図書・その他資料						
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考			
1	犬の飼育管理の実習		実習（学校飼育動物を実際にお世話する）			
2	猫の飼育管理の実習		実習（学校飼育動物を実際にお世話する）			
3	ウサギの飼育管理の実習		実習（学校飼育動物を実際にお世話する）			
4	モルモットの飼育管理の実習		実習（学校飼育動物を実際にお世話する）			
5	ハムスターの飼育管理の実習		実習（学校飼育動物を実際にお世話する）			
6	犬の飼育管理の実習		実習（学校飼育動物を実際にお世話する）			
7	猫の飼育管理の実習		実習（学校飼育動物を実際にお世話する）			
8	ウサギの飼育管理の実習		実習（学校飼育動物を実際にお世話する）			
9	モルモットの飼育管理の実習		実習（学校飼育動物を実際にお世話する）			
10	ハムスターの飼育管理の実習		実習（学校飼育動物を実際にお世話する）			
11	犬の飼育管理の実習		実習（学校飼育動物を実際にお世話する）			
12	猫の飼育管理の実習		実習（学校飼育動物を実際にお世話する）			
13	ウサギの飼育管理の実習		実習（学校飼育動物を実際にお世話する）			
14	モルモットの飼育管理の実習		実習（学校飼育動物を実際にお世話する）			
15	期末試験		筆記と実技の試験			
16	ハムスターの飼育管理の実習・フィードバック		実習（学校飼育動物を実際にお世話する）			
17	大動物の飼育管理の実習		動物ふれあいセンターでの実習			
18	小動物の飼育管理の実習		動物ふれあいセンターでの実習			
19	犬の飼育管理の実習		実習（学校飼育動物を実際にお世話する）			
20	猫の飼育管理の実習		実習（学校飼育動物を実際にお世話する）			
21	ウサギの飼育管理の実習		実習（学校飼育動物を実際にお世話する）			
22	モルモットの飼育管理の実習		実習（学校飼育動物を実際にお世話する）			
23	ハムスターの飼育管理の実習		実習（学校飼育動物を実際にお世話する）			
24	犬の飼育管理の実習		実習（学校飼育動物を実際にお世話する）			
25	猫の飼育管理の実習		実習（学校飼育動物を実際にお世話する）			
26	ウサギの飼育管理の実習		実習（学校飼育動物を実際にお世話する）			
27	モルモットの飼育管理の実習		実習（学校飼育動物を実際にお世話する）			
28	ハムスターの飼育管理の実習		実習（学校飼育動物を実際にお世話する）			
29	犬の飼育管理の実習		実習（学校飼育動物を実際にお世話する）			
30	猫の飼育管理の実習		実習（学校飼育動物を実際にお世話する）			
31	ウサギの飼育管理の実習		実習（学校飼育動物を実際にお世話する）			
32	期末試験					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意			
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。			1年生で学んだことを使用し環境を整えるだけでなく、散歩など動物を飼育するために必要なハンドリングやブラッシング技術の習得も目指す。			
実務経験教員の経歴	動物看護師として9年、動物病院に勤務していた					

科目名		食品学			
担当教員	稲川 祥子		実務授業の有無	○	
対象学科	愛玩動物看護師・リハビリ・トリマー学科	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	3	時間数	48
授業概要、目的、授業の進め方	<p>ペットフードの原材料となる食品の栄養的特性や利用に関する知識、添加物や表示に関する知識を習得する。また、食品栄養成分表の活用実践し、エネルギーと栄養素の算出方を学ぶ。手作り食や試食を実践で学ぶ。</p> <p>対面授業で実施。</p>				
学習目標 (到達目標)	<p>動物の状態や目的によりペットフードに必要な食材を選び、エネルギーと栄養素を算出し、総合栄養食との栄養比較をすることができる。また、ペットフードの表示や成分を読み取ることができることを目標とする。</p>				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	実教出版 オールガイド食品成分表2020、その他配布資料				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	授業概要、評価基準の説明 食品学を学ぶ意義 自分の食生活を見直す		自分の食生活と健康状態を見直すことで、食事について興味を持たせる。		
2	食品添加物、飼料添加物（動物と人の添加物の違い）		資料を使用。人、家畜、ペットそれぞれが使用できる添加物について理解する。		
3	エネルギー計算（自分の食卓のエネルギーを算出）		エネルギーの算出方法を学ぶ。		
4	食品成分表の活用実践 手作りのペットフードの特徴と評価		犬猫の手作り食のメリットとデメリットを学ぶ。		
5	食品成分表の活用実践 手作りのペットフードの特徴と評価		犬猫の手作り食とAAFCOの基準を比較する。		
6	調理実習のための準備① （メニュー作成、給与量計算、給与動物の確保、給与動物の夕飯		レシピ本を活用し、メニューを考案する。		
7	調理実習のための準備① （メニュー作成、給与量計算、給与動物の確保、給与動物の夕飯		給与量やエネルギーを算出する。		
8	調理実習①		手作り食を作り、動物に試食させる。		
9	栄養素の種類とはたらき （5大栄養素+水+食物繊維+フィトケミカル）		機能性成分とサプリメントについて学ぶ		
10	特定の疾病を考慮したレシピ作り		機能性成分と疾病の関係性を復習し、レシピ本を参考にメニューを考案する。		
11	特定の疾病を考慮したレシピ作り 調理実習のための準備② （給与量計算、給与動物の確保、給与動物の夕飯量計算）		給与量やエネルギーを算出する。		
12	調理実習②		手作り食を作り、動物に試食させる。		
13	嗜好試験		犬猫、エキゾチックアニマルの嗜好試験を実施。嗜好試験の種類と方法を学ぶ。		
14	エキゾチックアニマルの嗜好品作り		手作りおやつ（ドライフルーツ、ドライベジタブル）を作る。		
15	まとめ				
16	食肉類		テキストを使用。種類や特徴を学ぶ。		
17	魚介類		テキストを使用。種類や特徴を学ぶ。		
18	野菜類		テキストを使用。種類や特徴を学ぶ。		
19	卵類、乳類、油脂類、穀類、いも類、果実類、種実類		テキストを使用。種類や特徴を学ぶ。		
20	調理実習のための準備③（メニュー作成、給与量計算、給与動物の確保、給与動物の夕飯量計算）		レシピ本を活用し、メニューを考案する。給与量やエネルギー算出する。		
21	調理実習③		手作り食を作り、動物に試食させる。		
22	調理実習のための準備④（メニュー作成、給与量計算、給与動物の確保、給与動物の夕飯量計算）		レシピ本を活用し、メニューを考案する。給与量やエネルギー算出する。		
23	調理実習④		手作り食を作り、動物に試食させる。		
24	まとめ		まとめ		
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(60点未満)とする。		1年次の基礎栄養学（5大栄養素）とエネルギー計算の復習をしておく。調理実習では、火災やケガに注意する。			
実務経験教員の経歴	動物病院にて動物看護師として約5年の実務経験				

科目名					
ペット栄養管理士対策					
担当教員	稲川 祥子		実務授業の有無	○	
対象学科	愛玩動物看護師・リハビリ・トリマー学科	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	5	時間数	88
授業概要、目的、授業の進め方	基礎栄養学をより深く掘り下げ、6大栄養素と消化生理について、生化学を学ぶ。疾病の病態生理や要求栄養素の違いを理解し、特別療法食による食事指導ができるペット栄養管理士を目指す。また、法律、ペットフードの原料や添加物について理解し、ペットフードの輸入・製造・販売業者に必要な知識を習得する。 対面授業で実施。				
学習目標 (到達目標)	ペット栄養管理士資格の合格を目標とする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	ペット栄養管理士認定試験想定問題集(第5集)				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	ペットフードの添加物 ペットフードの各種動物試験法	問題集。資料の使用			
2	ペットフードに使用される主な原料 ペットフードの種類と加	問題集。資料の使用			
3	ペットフード市場 ペットフードに関する諸法令とペットフードの表示	問題集。資料の使用			
4	イヌとネコの食性・採食パターン・嗜好・採食量および飲水量	問題集。資料の使用			
5	イヌのライフステージと栄養	問題集。資料の使用			
6	エネルギー	問題集。資料の使用			
7	小テスト	問題集。資料の使用			
8	栄養素の消化と吸収	問題集。資料の使用			
9	三大栄養素とその役割	問題集。資料の使用			
10	ビタミン	問題集。資料の使用			
11	ミネラル代謝	問題集。資料の使用			
12	イヌ・ネコの肥満 ウサギの食事と病気	問題集。資料の使用			
13	小テスト	問題集。資料の使用			
14	消化器疾患と栄養	問題集。資料の使用			
15	尿石症の食事療法 慢性腎不全の食事療法	問題集。資料の使用			
16	肝臓疾患の食事療法	問題集。資料の使用			
17	歯科疾患と食事 術後の栄養管理	問題集。資料の使用			
18	がん患者の食事療法 糖尿病の食事療法	問題集。資料の使用			
19	慢性心不全の食事療法 共通感染症	問題集。資料の使用			
20	アレルギーの食事療法 異常行動と栄養管理	問題集。資料の使用			
21	小テスト	問題集。資料の使用			
22	弱点分野集中講座	問題集。資料の使用			
23	弱点分野集中講座	問題集。資料の使用			
24	弱点分野集中講座	問題集。資料の使用			
25	弱点分野集中講座	問題集。資料の使用			
26	弱点分野集中講座	問題集。資料の使用			
27	弱点分野集中講座	問題集。資料の使用			
28	弱点分野集中講座	問題集。資料の使用			
29	弱点分野集中講座	問題集。資料の使用			
30	弱点分野集中講座	問題集。資料の使用			
31	弱点分野集中講座	問題集。資料の使用			
32	弱点分野集中講座	問題集。資料の使用			
33	弱点分野集中講座	問題集。資料の使用			
34	弱点分野集中講座	問題集。資料の使用			
35	弱点分野集中講座	問題集。資料の使用			
36	弱点分野集中講座	問題集。資料の使用			
37	弱点分野集中講座	問題集。資料の使用			
38	弱点分野集中講座	問題集。資料の使用			
39	弱点分野集中講座	問題集。資料の使用			
40	弱点分野集中講座	問題集。資料の使用			
41	弱点分野集中講座	問題集。資料の使用			
42	弱点分野集中講座	問題集。資料の使用			
43	弱点分野集中講座	問題集。資料の使用			
44	模擬試験	問題集。資料の使用			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(60点未満)とする。		並ごとに小テストを実施し、理解度を確認する。 弱点克服では、各自の苦手分野を重点的に解答を進める。			
実務経験教員の経歴	動物病院にて、動物看護師として約5年の実務経験				

科目名	就職実務II				
担当教員	岡崎 康隆	実務授業の有無	×		
対象学科	愛玩動物看護師・リハビリ・トリマー学科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	毎日の生活を豊かに有意義に過ごすためにも、自分らしい生きがいややりがいを持って働くためにも、働く意義をしっかりと理解した上で就職活動を進めていく。 対面授業で実施。				
学習目標 (到達目標)	企業研究の方法を知ることができる。 企業訪問や就職試験について知ることができる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	動画で学ぶ 就活ナビ				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	インターンシップの振り返り				
2	インターンシップの振り返り 発表				
3	就職活動の流れ、必要書類作成について	<ul style="list-style-type: none"> ・就職活動の基準、提出書類の種類、流れを知る ・履歴書の学歴や検定欄の更新 			
4	求人検索の方法、求人票の見方	<ul style="list-style-type: none"> ・求人検索サイトを知る 			
5	合同企業ガイダンス・会社訪問の心構え、準備	<ul style="list-style-type: none"> ・求人票を見ながら項目ごとの意味を知る ・合同企業ガイダンスへの参加に向けた準備 ・企業研究をどのように行うか知る 			
6	面接のマナー、面接の形式	動画5-2～3			
7	面接のマナー、面接の形式	動画5-2～3			
8	コミュニケーションは「きく」から始まる、「話す」は「全身表現」	動画4-1～2			
9	コミュニケーションは「きく」から始まる、「話す」は「全身表現」	動画4-1～2			
10	日本語の発声法、緊張は友達、リズムカルに話す	動画4-3～5			
11	日本語の発声法、緊張は友達、リズムカルに話す	動画4-3～5			
12	ディスカッションの基礎、筆記試験対策	動画5-4～5			
13	ディスカッションの基礎、筆記試験対策	動画5-4～5			
14	実習日誌の作成 これまでの振り返り				
15	実習日誌の作成				
16	内定お礼状の書き方	プリント			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。		個別面談を行うこともあるので、毎回授業に出席すること。就職関係の提出物などの遅れがないようにすること。			
実務経験教員の経歴	動物看護師として8年間、動物病院に勤務していた				

科目名		コミュニケーション実践Ⅱ				
担当教員		岡崎 康隆		実務授業の有無	×	
対象学科		愛玩動物看護師・リハビリ・トリマー学科	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択		必修	単位数	2	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方		<p>毎日の生活を豊かに有意義に過ごすためにも、自分らしい生きがいややりがいを持って働くためにも、働く意義をしっかりと理解した上で就職活動を進めていく。求職登録面接、就職研修、インターンシップを通して、翌年の就職活動を意識する。</p> <p>対面授業で実施。</p>				
学習目標 (到達目標)		<p>就職活動の心構えと流れを知ることができる。</p> <p>自分と職業を理解することができる。</p>				
テキスト・教材・参考図書・その他資料		なし				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	内定先への暑中見舞い・年賀状の書き方			プリント		
2	内定先への暑中見舞い・年賀状の書き方			プリント		
3	社会人になってからのマナー（日常のマナー）			プリント		
4	社会人になってからのマナー（日常のマナー）			プリント		
5	社会人になってからのマナー（身だしなみ、敬語）			プリント		
6	社会人になってからのマナー（身だしなみ、敬語）			プリント		
7	社会人になってからのマナー（備品の名称、使い方）			プリント		
8	社会人になってからのマナー（備品の名称、使い方）			プリント		
9	社会人になってからのマナー（メール、ビジネス文書）			プリント		
10	社会人になってからのマナー（メール、ビジネス文書）			プリント		
11	社会人になってからのマナー（接待）			プリント		
12	社会人になってからのマナー（接待）			プリント		
13	社会人になってからのマナー（慶弔業務）			プリント		
14	社会人になってからのマナー（慶弔業務）			プリント		
15	社会人になってからのマナー（退職）			プリント		
16	2年間の振り返り			課題		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
<p>成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。</p>				<p>書類作成や面接練習をすることもあるので、毎回授業に出席し、提出物などの遅れがないようにする。面接練習は必ず事前に準備しておくこと。</p>		
実務経験教員の経歴		動物看護師として8年間、動物病院に勤務していた				

科目名	コンピュータ実習Ⅱ				
担当教員	古保 秀子		実務授業の有無	○	
対象学科	愛玩動物看護師・リハビリ・トリマー学科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	Excelの理解を深め、自信をもって活用できる基本技能を身につける 対面授業で実施				
学習目標 (到達目標)	Excel表計算処理技能認定試験 3級 取得することができる				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	Excel2016 クイックマスター 基本編				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	新規フォルダー作成・ファイルコピー Chapter1 Excelの基本 Chapter2 データの編集		画面構成、用語の確認 範囲選択 文字の入力、数値の入力		
2	Chapter2 データの編集 ●問題集 練習問題1【問題2】(1)～(3)		日付の入力、オートフィル、数式、合計関数、相対参照・絶対参照、コピー・移動		
3	Chapter3 表の編集 ●問題集 練習問題2【問題2】(1)～(3)		セルの書式設定、表示形式		
4	Chapter7 関数		基本関数の意味と使い方(平均、最大、最少、データの個数、順位)		
5	Chapter8 データベース機能 ●問題集 練習問題1【問題2】(4)～(6)、【問題3】 ●問題集 練習問題2【問題2】(4)～(6)、【問題3】		並べ替え、フィルター		
6	Chapter5 グラフと図形の作成 Chapter6 ブックの利用と管理		グラフ作成・編集、ワークシート名の変更、シートコピー		
7	Chapter4 ブックの印刷 ●問題集 練習問題1 完成		ページ設定、グラフ作成・編集の基本、スパークライン		
8	●練習問題 2～3		解説誘導しながら 答案解答作成		
9	●練習問題4～5		各人のベースで解答 巡回してチェック・ポイント解説		
10	●練習問題6～7		〃		
11	●練習問題8～9		〃		
12	●練習問題10、模擬問題2		〃		
13	●模擬問題3～4		〃		
14	●模擬問題5～6		〃		
15	●試験実施プログラム 模擬問題1		前問題振り返り 時間計測して実施、解答ファイル採点		
16	検定				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。			パソコンスキルはどの業界へ就職しても必須となります。パソコンの基本的な操作の仕方、表計算やデータを利用した簡単な資料作成の方法をしっかりとマスターしましょう。授業中に分からない事や上手く出来なかった事は休み時間を利用して練習をしましょう。		
実務経験教員の経歴	一般向けパソコン教室において20年以上関わっていた				

科目名	リハビリテーション概論				
担当教員	遠藤 純一	実務授業の有無	○		
対象学科	愛玩動物看護師・リハビリ・トリマー学科	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	リハビリテーションの概要を知り、実習の臨む準備をする 対面授業で実施				
学習目標 (到達目標)	リハビリテーションの理解と実践に向けての知識の習得				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	小動物のリハビリテーション入門				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	リハビリテーションとは	パワーポイント			
2	動物のリハビリテーションに必要な運動器の形態と機能	パワーポイント			
3	動物のリハビリテーションに必要な運動器の形態と機能	パワーポイント			
4	動物のリハビリテーションに必要な運動器の形態と機能	パワーポイント			
5	創傷治癒の基本と運動器の障害からの回復	パワーポイント			
6	創傷治癒の基本と運動器の障害からの回復	パワーポイント			
7	廃用と不動化および再可動に対する筋骨格組織の変化	パワーポイント			
8	廃用と不動化および再可動に対する筋骨格組織の変化	パワーポイント			
9	病態の評価と身体測定	パワーポイント			
10	病態の評価と身体測定	パワーポイント			
11	歩様検査、整形外科的検査、神経学的検査	パワーポイント			
12	理学療法概論	パワーポイント			
13	徒手療法、運動療法、物理療法について	パワーポイント			
14	徒手療法、運動療法、物理療法について	パワーポイント			
15	期末試験				
16	振り返り				
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴	動物病院にて動物看護師として5年勤務				

科目名		大学併修科目Ⅱ			
担当教員	岡崎 康隆		実務授業の有無	×	
対象学科	愛玩動物看護師・リハビリ・トリマー学科	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	64
授業概要、目的、授業の進め方	大学科目の実践				
学習目標 (到達目標)					
テキスト・教材・参考図書・その他資料					
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	大学併修科目の実践				
2	大学併修科目の実践				
3	大学併修科目の実践				
4	大学併修科目の実践				
5	大学併修科目の実践				
6	大学併修科目の実践				
7	大学併修科目の実践				
8	大学併修科目の実践				
9	大学併修科目の実践				
10	大学併修科目の実践				
11	大学併修科目の実践				
12	大学併修科目の実践				
13	大学併修科目の実践				
14	大学併修科目の実践				
15	大学併修科目の実践				
16	大学併修科目の実践				
17	大学併修科目の実践				
18	大学併修科目の実践				
19	大学併修科目の実践				
20	大学併修科目の実践				
21	大学併修科目の実践				
22	大学併修科目の実践				
23	大学併修科目の実践				
24	大学併修科目の実践				
25	大学併修科目の実践				
26	大学併修科目の実践				
27	大学併修科目の実践				
28	大学併修科目の実践				
29	大学併修科目の実践				
30	大学併修科目の実践				
31	大学併修科目の実践				
32	大学併修科目の実践				
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴	動物看護師として8年間、動物病院に勤務していた				

科目名	トリミング理論				
担当教員	山田佳枝	実務授業の有無	×		
対象学科	愛玩動物看護師・リハビリ・トリマー学科	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必須	単位数	1	時間数	16
授業概要、目的、授業の進め方	各犬種ごとのペットカットのトリミングスタイルを学ぶ。 ペットカットには、決まりがないため、まずはスタンダードを理解する。 対面授業で実施。				
学習目標 (到達目標)	各犬種ごとのトリミングスタイルを理解し、グルーミング実習にて実践が出来るようになる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	インターズー ドッグ・グルーマーズ プロフェッショナル・ワークブック				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	トリミングの目的、ペットカットとショークリップの違い				
2	トリミング方法と道具について、トリマーの心得				
3	アウトラインカットについて				
4	ポメラニアンの子カット				
5	プードルのラムクリップ、ベアカットについて				
6	マルチーズのペットカット①				
7	接客対応				
8	期末試験				
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴	専門学校教員歴 15年				